



時代とともに歩む舞鶴の近代化 【第7回】 湊十二社手洗所

みなとじゅうにしやてあらいしょ
湊十二社手洗所

舞鶴市が都市として発展した近代に築かれた多くのインフラは、今も私たちの生活の中に息づいています。

このシリーズでは、市内に残る貴重な舞鶴の近代化遺産にスポットを当てて紹介します。

れんがのまちの歩みを伝える手水舎

神崎地区にある湊十二社の境内には、珍しいれんが造りの手水舎があります。これは、今から123年前の明治36年、同地区にあったれんが工場の創業者が奉納したものです。木造建築の手水舎が一般的な中、れんがで造られているだけでなく、れんがの壁に透かしを設けたり、柱の角を



▲湊十二社手洗所

丸く加工したりと、細部まで意匠が凝らされています。まだ、れんがの建物が珍しかった当時、洋風の手水舎は地域の人々に驚きを与えました。

れんがは大量生産の時代へ

神崎地区では、舞鶴全体が軍港の建設ラッシュに沸いていた明治30年に「登り窯」によるれんがの製造が開始されました。その後、大正時代には、れんがの大量生産が可能なる「ホフマン式輪窯」が導入。れんがの製造は、ますます盛んになりました。

この手水舎は、れんがのまち舞鶴の歩みを伝える近代化遺産の一つとなっています。

《歴史文化まちづくり課》



▲神崎煉瓦ホフマン式輪窯



まいづる観光スポット 【第2回】 物語を生む絶景

舞鶴のPRキャラクター「チョコキまる」がオススメのスポットを紹介するシリーズ。第2回目は「五老スカイタワー」です。《商工・観光振興課》

五老岳から望む！物語を生んだ圧倒的パノラマ絶景

舞鶴のほぼ中央に位置する標高301mの五老岳。その頂上にそびえ立つ高さ50mの「五老スカイタワー」からみる景色は、まさに息をのむ大迫力！「近畿百景」第1位に輝いたこの眺望は、美しく入り組んだ舞鶴湾と街並みを一望できる超スペシャルなロケーションなんだカニ〜！

また最近では、作家・宮本輝さんの小説『湾』の舞台としても注目を集めているカニ〜。自衛隊の護衛艦やクルーズ船の航行、雲海など、季節や時間帯によって表情を変える地元の絶景を今一度体感してほしいカニ〜！

絶景を眺めながら
カフェタイムも楽しめるカニ〜。



『湾』は戦後から令和へ、ある家族の人生の営みを描く壮大で美しい長編小説です。

宮本さんは、五老岳に登り、美しい舞鶴湾を見た時に、この町を舞台に小説を書こうと決めたそうです。



▲小説『湾』

小学校や地域の教室などで、大正琴や豎琴を指導し、自らも演奏を続けている田中さん。大正琴を始めて30年経った今もなお、その魅力を探究中であると語る素顔に迫りました。

琴修会舞鶴支部 よつば会
舞鶴市文化協会 副会長
田中 美香子さん



音楽でつながる地域の絆

まいづる元氣人

vol.114

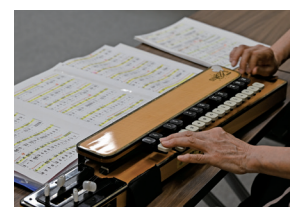
大正琴との出会いと現在

大正琴を教えていた義母の影響で始めました。学生時代は、吹奏楽部に所属するなど、楽器の演奏が好きだったこともあり、すぐにその魅力に引き込まれました。その後、資格を取得し、本格的に大正琴の講師として活動を始め、5年ほど前からは、新たに「豎琴」の指導にも取り組んでいます。

現在は、舞鶴市を中心に大正琴の演奏活動や指導を行う「よつば会」で約40人を指導するほか、2年に1回、演奏会を開催。また、小学校の「大正琴クラブ」では、J-POPの最新曲を演奏するなど、日々挑戦を続けています。

誰でも奏でられる、いくつからでも始められる

大正琴は、一般的な箏とは違い、サイズが小さく、数字で音階を示した「数字譜」を使うため、楽譜が読めない人でも気軽に始められます。また豎琴は、近年、人気が高まっ



▲大正琴



▲豎琴

てきており、映画「千と千尋の神隠し」の主題歌「いつも何度でも」で使用された楽器と言え、耳にしたことがある人も多いのではないのでしょうか。

教室には、20代から80代までさまざまな世代の人が通われていますが、特に中心となる60〜70代の皆さんの前向きな姿に、いつも元気をもらっています。大正琴はスポーツに比べて何歳からでも始めやすく、長く続けていく中で世代を超えた人とのつながりも生まれます。ぜひ、現役世代の皆さんにも一度触れてもらいたいです。

みんなで奏でる日本の面や

私は、長年演奏を続けていますが、大正琴の魅力は奥深く「完璧に演奏ができた」と思えた瞬間は一度もありません。今その魅力を探究し続けています。演奏は常に楽しく、やめたいと思ったこと

はありません。一人ではなく「みんなで奏でるからこそその面白さ」があることも長く続けてこられた理由です。

大切なのは楽しむ気持ち

現在は、11月に開催する秋の総合文化祭の一環である「大正琴&たて琴の集い」に向けて、練習と指導に励んでいます。この公演は7月に発生した熊本地震のチャリティーライブとしても実施します。CMソングメドレーなど、大正琴の音色を初めて聴く人にも楽しんでいただける内容です。まずは、気軽に演奏を聴きにきてください。これからは大正琴を通じて、温かい人のつながりを舞鶴で広げていきたいと思っています。



▲発表会に向けての練習